

光永 勇 × スペシャル対談

話題の政治家に聞く!!



元 民主党代表

海江田万里

●期日：2014年6月12日 ●場所：民主党本部

政局が益々混迷を極める中、
党首討論の直後という超・多忙な合間を縫って
インタビューに応じて下さいました。

所属議員が各々、言いたい事を言っていてはまとまりません。一つのテーマをことん議論し、党で決めた方針を所属議員が守る。そういう文化を民主党にも根付かせたいと思っています。与党であれば、まとまっていこうという力が働きますが、野党は言いたい事を言わせてもらいたい、そうでなければ野党の意味がないと考えている人がいますが、それでは意思の一致が困難です。そこを乗り越えて、いつでも政権交代が可能な野党としての基盤作りが私に課せられた仕事だと思っています。

**中国に対しては毅然と
アメリカに対しては
堂々と主張したい**

■光永 私はアメリカ施政下の沖縄で生まれ育ちました。沖縄には尖閣諸島の問題とか、基地の問題があります。安全保障の問題に関しては、政権交代後の民主党に期待していました。沖縄県は基地からの騒音や危険な公害、中国からの圧力を受けています。石垣島は、日常生活においても豊かな漁場ですが、日本領海でもある尖閣諸島沖で漁をする事も制限されて、漁民は窮地に追い込まれています。

■海江田 尖閣の問題では中国に毅然とした態度をとらなければいけないと思います。一方で安倍総理は、日米安保の関係で日本は血を流してアメリカを守る覚悟を示さないと対等な関係は築けないと話しています。私は、それは間違いだと思っています。今、日

■光永 党首に就任されて2年目を迎えます。「あえて火中の栗を拾う。党を立て直す責任がある」。議席も相当減らした後の大役でしたが、野党第一党のリーダーとして今日までのご感想と今後について伺いたいと思います。

■海江田 民主党が衆議院選挙で敗北した後は、党内融和が第一の課題でした。しかし今は、自分の考えで民主党を引っ張っていく事が大事だと思い始めており、そちらの方に軸足を移していつています。そろそろ海江田カラーを出していきたいです。

■光永 多彩な民主党のカラーを統率する上で、一番腐心している事は何でしょうか？

■海江田 国政で取り扱う多種多様なテーマには、様々な意見があります。

本はアメリカのために血を流さなくても良い事になっていて、そのために不平等な地位協定を結んでいます。アメリカに対して必要な部分は堂々と主張できるようにする事が大事です。

■光永 民主党は中国との関係も、わりと友好的だと思うのですが。

■海江田 確かに我々は中国との友好関係が深いですが、尖閣は日本の国の領土です。主張すべき事は主張し、中国が沖縄の漁民を圧迫する事があつてはなりません。それと同時に、これまで以上に無駄な摩擦、必要以上の摩擦を起こさず、中国に攻撃の口実を与えない事が重要だと考えます。靖国神社の参拝など、日本の指導者に慎重な対応が必要なのも、そのためです。

年金は、国債を中心に運用を

■光永 経済政策である年金の取り崩し問題を、どのように考えますか？

■海江田 年金の積立金の運用をリスクの高い株式にしようという話があります。株価は上がったりがつたりしますから、今まで通り、国債を中心とした運用が一番良いのではないかと思います。安倍政権の人氣は株価に連動しているので、株価を上げたいのでしようが、年金の資金を利用して株価を上げるのは、間違っています。

中国を含むASEAN+6を中心とした大きな経済圏へ

■光永 安倍総理は諸外国、特に東

南アジアの国々と語り合ったといいますが、外交上の問題を巻き起こしつつ、突き進んで行っているように思います。

■海江田 経済的な面でも、さらに成長していく東南アジアの成長を取り込む事は大事だと思いますが、中国包囲網のように映ってしまうのは良くありません。タイもベトナムもインドネシアも、複雑な事情を抱えています。このような状況を踏まえ、私は近い未来、中国も巻き込んだASEAN+6を中心とした大きな経済圏ができれば良いと思います。そのためにも周辺国との友好的な関係は重要です。

所属政治家一人ひとりの地道な活動で信頼を回復

■光永 民主党が大勝した後に、惨敗した原因は何だと考えますか？

■海江田 民主党に対する国民からの大きな期待で政権交代が実現しました。その後の敗北は、一言で言えば期待が裏切られたという事に尽きると思います。期待が大きかっただけに、失望も大きかったのだと思います。そこから立ち直るためには、党として所属政治家の一人ひとりが、地道な活動をする姿を見せなければいけません。

■光永 もう一度、政権奪取を考えていますか？

■海江田 再度政権交代をしなければ、日本がとんでもない方向へ行ってしまうと思います。

■光永 野党間の選挙協力は？

■海江田 当然やらなければいけま

せん。選挙協力するまでに、民主党がしっかりと組織運営をしていけば、まわりの野党に呼び掛けなくても結束する事ができます。

第三政党にはない地方議員1800人の力を結集

■光永 最近、他の党が分党しました。その時に、一方の勢力は自民党に近寄り、もう一方は民主党に近寄り、最終的には一緒にやるとい事ですか？

■海江田 民主党が立て直しをすれば、仲間もやってきます。そういう部分で政界再編が進むと思います。もうひとつ大事なのは、来年の春に行われる統一地方選挙で、無所属ながら民主党と協力関係にある1800人の議員数を減らさず増やしていき、勝ち抜く事がポイントだと思います。

■光永 確かに離合集散する政党には地方議員はいません。

■海江田 オリジナルな民主党は'96年結党です。旧民主党時代から数える、かれこれ18年の歴史があります。

街頭の訴えこそ政治の原点

■光永 党首になると街頭に立つて戦う事が減ると思います。街頭活動こそ海江田先生の特徴であったと思いますが、いかがですか？

■海江田 マスコミは野党に対しては良いように書いてくれませんが、仕方ありません。国会開会中で、なかなか街頭に立てませんが、街頭に出て訴

える事こそ政治の原点であり大事だという気持ちに変わりはありません。

■光永 創立44周年を迎える勝手連と、創刊50周年を迎える議会新聞に対して、アドバイスをお願いします。

■海江田 44年の間、色々な政治の流れがありました。組織の締め付け型の選挙が横行する中で、応援したい候補者を応援するという、民主主義の原点のようなものを守っているのが勝手連ではないかと思えます。これからも、その精神を大事にして頑張っていたきたいと思えます。議会新聞が半世紀というの、凄いです。インターネットの時代、紙媒体は凋落の一途だと言われますが、街頭演説が原点であるように、新聞も民主主義の原点です。人の心を奮い立たせる活字を、引き続き出し続けられる事を祈念いたします。

■光永 僕らも選挙で海江田先生が街頭に立った時に、一緒に街宣カーに乗って戦った事を誇りに思っています。今日は国会開会中のお忙しい中、長時間、ありがとうございます。

■海江田 本当にありがとうございます。今後もよろしくお願いします。

海江田万里(かいえだ ばんり)プロフィール

1949年東京都生まれ。政治家、経済評論家。民主党顧問。衆議院議員(6期)、民主党政策調査会長(第5代)、内閣府特命担当大臣(経済財政政策担当)、内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)、経済産業大臣(第14代)、民主党代表(第10代)などを歴任した。